

しらね

6月号

「いい加減な気持ちで目標を立てるな！」

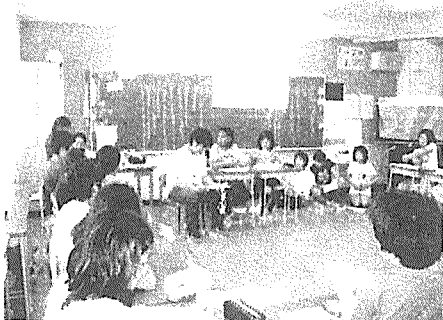
～実現性のある目標を立て、苦しくても達成させる子に～

学校長 持丸 隆一

学校のシンボルツリー「ゆりの木」の花が美しく咲く季節となりました。歴史のある学校
のよさとして誰もが、それを思い出すとそこに思いを馳せるもの、当時を思い起こすこと
のできるものがあります。時としてそれは、目に見えるものであり、目に見えないものである
時もあります。ただ、いつの時代もそれは、ある意味で学校という集団生活の場であるがゆ
えに存在するものでもあります。

単なる第一次集団（機械的に分けられた集団、学年当初のクラス分けされた集団）が本物
の集団、教育された集団、第二次集団（機能的集団、目的達成型集団）になるには集団の目
標が必要です。学校教育の中では様々な場面で子ども自身に目標を立てさせ、それに向かっ
てみんなで協力して努力する場面を設定します。そうすることで、人として努力して、より
高い目標に向かって生きていこうとする生き方を身に付けていきます。大きな夢を抱くこと、
非常に高い目標設定することも素敵ですが、学校ではまず、実現可能な目標を立てさせるよ
うにしています。その目標も簡単に今ある力で達成される目標ではないけれど、みんなで励
ましあったり、力を合わせたりすることで実現できるレベルの目標を立てさせるように指導
しています。ここに教育活動の意味があります。ですから、目標を児童が学習活動の中で設
定したら、実現できるように児童に努力を求め、支援をします。

過日の全校遠足は、縦割り活動がメインの活動でした。活動の目的自体が異学年の友達と
仲良くなるということでした。今回の活動で目指す仲良しとは、『遠足を終えて帰ってきた
ら全員が班の仲間を名前呼び合える仲間になる』というものでした。なかなか具体的でよい
目標です。目標は、できれば達成度が誰にでも判断できるものが望ましいです。そういう
意味でもこの目標なら1年生にも達成されたかがよくわかります。そして、目標達成のため
には、達成にふさわしい具体的な活動内容が必要になります。残念なことに今回は多くの班
がこれを具体的に持っていなかったために、全班で目標を達成するという結果に至りません
でした。これには、指導の甘さもありますが、何が何でも目標を達成しようという児童の姿
勢にも問題がありました。私は、遠足の次の週の月曜日にこのことを6年生の児童に話しま



した。最上級生として、学校のリーダーとして『よりよ
い学校づくり』に心を傾けている6年生にこの考え方を
是非伝えたかったからです。6年生は真摯に私の話を聞
いてくれて、自分たちの活動を振り返ってくれました。
そして、その後の生活の中で多くの児童がこのことを意
識して生活するようになりました。きっと、今年の白根
小学校は、大きく変わるでしょう。多くの学年で、学級
で、今、まさに集団の目標を作り、取り組み始めた時期

です。学校では、年間を通して、立てた目標に対して実現させるという指導を、努力をさせ
るという指導を重ねます。家庭でもそんな児童の成長を励ましてください。